

輝創 情熱

ひとのチカラ

このコーナーでは、夢に向かって情熱を持ち続けながら、明日の薩摩川内市を創る、元気人、輝き人のこれまでとこれからを紹介します。

第2回は、満園克義さんです。



(写真左が満園克義さん)

満園 克義 (みつその かつよし) 1970年入来町に生まれる。高校卒業後、東京の専門学校を経て城山観光ホテルに調理師として5年間勤務。地元入来町へ26歳でUターン。数年後に仕出し・弁当「みかく亭」を開業。自社牧場で黒豚約300頭を飼育。(株)八重山高原ファーム代表取締役。41歳。

黒豚のうま味に魅せられて

午前11時。店内のショーケースに出来上がったばかりのお弁当が所狭しと陳列される。大皿に盛り込まれた手作りのコロッケやメンチカツ、唐揚げなどがお弁当コーナーの傍らに居座る。店内がいつきに華やき、食欲をそそる芳ばしい香りが広がる。仕出し弁当屋「みかく亭」の毎日の光景だ。黒豚トンカツ弁当やコロッケ、メンチカツに入る豚肉は、自ら牧場で大切に育てた黒豚である。

だった。「当時両親がスーパーを経営していた。店頭の商品として並ぶ前の、一番新鮮な食材を、最初に試食することが出来たんです。」知らず知らずのうちに食材の良し悪しを知ることができ、環境が、食に対する関心を高め、いい意味で食いしん坊の自分を形成したのではと振り返る。幼少期から高校卒業まで、そのような環境の中で過ごしたことで、将来も食に携わる仕事に就きたいと思い、料理人の道を志す。高校卒業後、東京の専門学校で調理師免許を取得。鹿児島市にある城山観光ホテルの調理部門に5年間勤め、入来町にUターンしたのが26歳の時。両親が経営するスーパーを手伝い数年後、現在の店を開業した。これまでに料理人として培った味覚をお客さまに伝えたい、おいしくて、安心して食べられるものを提供したいと思ったことがきっかけで、自ら黒豚の生産を始めた。農業などの六次産業化は、元となる一次産業があり、加工(二次産業)、流通・販売(三次産業)までの工程を一括して手がけようとするのが一般的。満園さんの場合はその逆のパターン。



り、この仕事を継続していく原動力にもなっている。新しい命と出会う子供たちの誕生もそのひとつ。

自分の使命

食の安心安全が叫ばれる昨今。お客さまに自信を持って「本物」を提供し続けることは、料理人という道を選んだ自分の使命だという。今年で店は開業10年目を迎える。こだわりの黒豚を育てる牧場は、県指定種豚場の認定を受けている。これは、県内に16カ所しかない。3月には、六次産業化法の企業認定も新たに受けた。極上の黒豚として発送も可能なセット商品などを持参し、県外の百貨店で開催される物産展への出店も年間20回を超す。

現在牧場で働く社員は4人。餌にはサツマイモも混ぜるなど独自の手法を凝らす。生き物や自然を相手にする農業は大変厳しい。豚舎の清掃、餌やり、飼育管理など、手を抜けば、即悪い事態へと陥る危険と隣り合わせる。でも携わる者しか分らない感動や喜びもある。

商品購入者から送付されてくるアンケートハガキを大事に持っている。「お客さまにおいしかったと喜んでもらえることが、私の原点でもあります。試行錯誤の毎日ですよ。」満園さんの取り組みは続く。

そこが知りたい! 歴史散策シリーズ

第1回 薩摩国府跡と薩摩国分寺跡

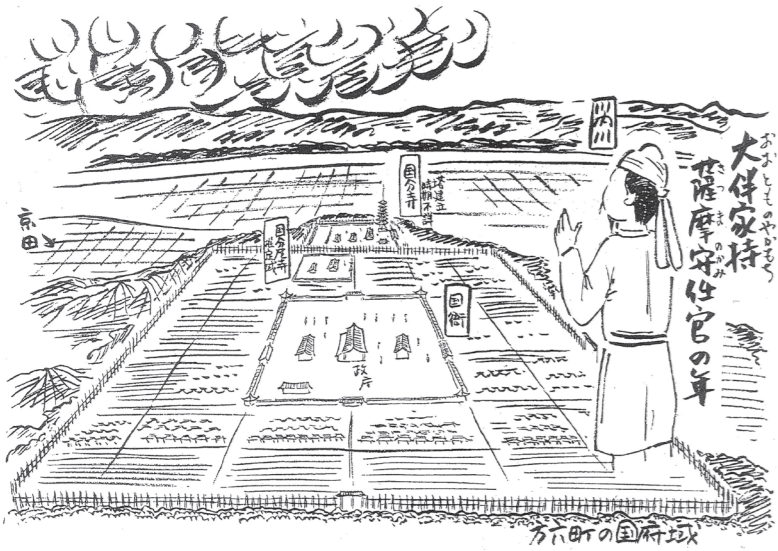
知っているようで知らない薩摩川内市に点在する文化財をクローズアップ!!



出土した古代瓦 (川内歴史資料館)



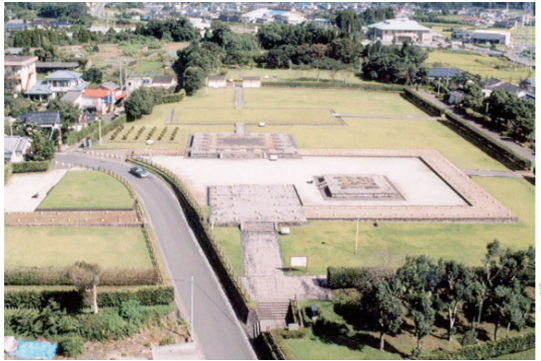
つるみかま 鶴峯築跡 (中郷町)



薩摩国府域想像図(墨画 せんだい歴史絵日記より)



復元された展示模型(川内歴史資料館)



薩摩国分寺跡史跡公園(国分寺町)

薩摩川内市には、今から約1300年前、薩摩国府(薩摩の都)が置かれていました。国府は、現在で例えれば県庁の役割をしていた機関です。当地に薩摩国府が設置されたのは、川内川が交通・軍事上極めて重要であり、沖積平野の中心であるという地理的条件も考えられています。国府の南北を結ぶ中軸線は、御陵下町と国分寺町との境界となっており、川内高校裏側一帯、方六町(一町109m)の範囲が推定されています。また、薩摩国府の東側に隣接して、薩摩国分寺もありました。国分寺は、天平13年(741年)に聖武天皇の詔(命令)により、国家の安定と国民の幸福を祈願して、全国六十余国に建立されました。国分寺は、僧寺と尼寺からなり正式には、僧寺「金光明四天王護国之寺」と尼寺「法華滅罪之寺」といいます。僧寺は僧20人、尼寺は尼僧10人が配置されていました。当時は、国府とともに薩摩国内で最大の建築物でした。昭和43年から45年にかけて発掘調査が行なわれた結果、創建時期は、奈良時代末期頃と考えられています。

今回紹介した史跡位置図



す。平成13年には、京田遺跡から「棒状告知木簡」が出土し、墨書(文字)からも当時、条里制が行われていたことを知ることができます。また、中郷町にある鶴峯築跡からは、古代瓦(国分寺に使用)が窠に詰められた状態で発見されています。薩摩国分寺跡と鶴峯築跡は国指定史跡となり、昭和60年には、保存と活用を目的に薩摩国分寺跡史跡公園として整備されました。(公園内に説明板あり) 現在は、同公園で「薩摩国分寺秋の夕べ」が開催され、郷土芸能などを鑑賞する場としても活用されています。こちらも、ぜひご来場ください。今回は万葉の散歩道を紹介いたします。

【問合先】=本庁文化課 ☎(23)5111(内線5231)